

りんごわい性台木「JM1」、「JM7」の挿し木繁殖安定技術

りんご新しい性台木「JM1」「JM7」は、ポリマルチした床土へ発根促進剤処理後3月下旬に挿し木し、活着後は6月中旬にチッソ肥料で追肥を行うことにより高い挿し木繁殖率を得られる。

表1 りんごわい性台木「JM1」、「JM7」を用いた挿し木繁殖法

管理法	技術内容
挿し床	元肥として良質な完熟堆肥を1㎡当たり1kg混和する 床土はローラーなどで均一に鎮圧し、硬さは足で軽く踏む程度とする 被覆資材は黒または白黒のポリマルチを用いる 挿し木後直ちにマルチ上に土壌を被せる
挿し木	挿し木の時期は消雪後なるべく早く3月下旬に行う 挿し木直前に、インドール酪酸液剤（林ハロ液剤）4倍液で挿し穂を瞬間浸漬する
肥培管理	6月中旬に10㎡当たりチッソ成分10kg相当の追肥を行う



図1 挿し穂の調整

15cmの長さに揃え、下部をナイフで切り返す



図2 挿し木直後

15×15cmの間隔で、頂部1芽を出してやや斜めに挿す



図3 ポリマルチ上の土壌被覆

全面に浅く被せる



図4 窒素肥料の追肥

マルチを剥ぐか、マルチに大きな切れ目を入れてから施用する